

秋田県立大学 図書館だより



No. 10 2005.1

》》》》》》》》》 目 次 《《《《《《《《《

電子ジャーナルの充実を — 文献検索の苦勞から 木材高度加工研究所所長 栗原 正章	1
『企画図書』を手にして 図書・情報委員会委員 赤木 宏守	3
利用案内：図書館内の配置について	4
資料探索法：インターネットで論文を探す	6
図書館からのお知らせ	8



電子ジャーナルの充実を — 文献検索の苦勞から

木材高度加工研究所所長 栗原 正章

研究者にとって研究情報を速やかに得ることが重要であることはいうまでもない。しかし、文献を集めるにはそれなり苦勞をとまなう。これまで筆者の文献検索や収集の経験を思い出しながら、最近感じていることを述べてみたい。

新しい論文を早く目にしたいという欲望はどの研究者にもある。研究者にとって誰にも影響されないような独創的な研究を行うことが重要であろうが、現実にはなかなか難しい。関連分

野の研究動向はいつも気になる。私自身、海外のシンポジウムや学会には比較的頻繁に出席していたが、最近ではあまり出かけなくなったので、新しい情報の入手は必然的に文献検索に頼らざるを得なくなっている。私の古い経験では、一時期 Current Contents 誌を研究費から多大な費用をかけて共同購入し、それをチェックしては著者宛に別刷り請求の葉書を送っていた。これはなかなか根気の要る仕事であった。この

ような経験をされた先生方は多いだろう。しかし、現在では電子ジャーナルを利用することにより、入手し難いジャーナルに掲載されている論文以外、別刷り請求の必要性はほとんどなくなってしまった。また、逆に別刷り請求の葉書（最近ではE-mail）を受け取ることも少なくなった。先日アメリカの学術誌に論文を掲載したが、別刷りの請求は今のところ3通に過ぎない。まさに今昔の感がある。

ところで、情報ネットワークが張りめぐらされると、情報を得るに地域差がなくなると言われていた。確かに一般的な商業情報はどこに行っても取り出すことができるし、それを利用することもできる。また、研究情報や技術情報についても、適切なキーワードを入力すればある程度のものは入手することができる。各省庁が主管する大型プロジェクトの報告書も Web 上で読むこともできるようになったが、詳細な実験結果について知ることは不可能である。このような状況にもかかわらず、最近、研究情報を得ることに关してはますます大学間あるいは地域の格差が広がっていくように感じられる。その一つは電子ジャーナルの利用についてである。ご承知の方も多いので多言を要しないが、電子ジャーナルとは「論文をデジタル化し、Web 上で読めるようにした雑誌」と定義されている。

電子ジャーナルの利点は、

1. アクセスが簡単であり、端末から論文全体をダウンロードできること。
 2. 最新刊の論文を入手でき、場合によっては印刷・出版に先だって論文を読むことができること。
 3. 優れたリンク機能をもち、ハイパーリンクで関連文献を検索することができること。
- などである。

私の研究分野では、Science Direct、Link、Kluwer、BioMed など、出版社が提供するファイルなどを利用することが多い。検索したほとんどの論文は全文をダウンロードすることができる。また、Biological Abstract、Chemical Abstract などの抄録誌を利用することも多く、

これらの Abstract でもリンク機能により抄録だけでなく論文の全文を読むことが可能になっている。しかし、このような検索は残念ながら本学ではできない。私の場合は前任の大学の図書館が研究室で行い、急ぐ場合には研究者に依頼することが多い。本学からは Ingenta を利用して論文の Abstract を読むことができるということであるが、まだ試してはいない。

電子ジャーナルのサービスを受けるためには莫大な維持費と出版社などとの契約金が必要であり、また、全国共同利用のためのシステム作りが必要となる。大学によっては研究経費の削減のため、電子ジャーナルの利用を停止した例も聞いている。経費の点から見て電子ジャーナルの充実は、残念ながら本学の図書館の規模にとっては手に余る事業になることであろう。

一方では、電子ジャーナルが便利でありすぎるため、例えば一括ダウンロードのようなルール違反も続出し、また、大量の情報が簡単に得られるため情報過多に陥ってしまう、という受け手方に問題のある場合もある。しかし、電子ジャーナルは研究者や学生にとって欠くことのできない情報収集源になっているといっても過言ではない。大きな大学の研究者や学生がごく当たり前のこととして最新の研究情報を入手していることを目にするにすると大学間の格差の存在を認識せざるを得ない。本学の研究や教育の充実を図るためには是非とも可能にさせていただくことを望んでいる。

終わりに、それでは、得られた文献や情報をどのように整理したらよいのであろうか。文献の整理法については多くの本が書かれている。私も若い頃からいろいろ試みた。最も単純で手間のかからない整理法として自分に適した一つのシステムを考え、根気よく25年ほど続けたが現在では全く諦めてしまっている。長い苦勞の末に得られたのは「記憶力が最も重要」という皮肉な結論であった。



『企画図書』を手にして

図書・情報委員会委員 赤木 宏 守

(生物資源科学部 生物生産科学科助教授)

学生のときは時間があると何気なく図書館へ行き色々と本を手にとっていたように思う。近頃では、必要に迫られて調べもののために図書館へ行くことが殆どである。書架の前に立つと興味をそそられるタイトルが目飛び込んできて、ついつい色んな本を開いてみたくなる。周囲の本も気になり書架の間をキョロキョロしながら歩いてはみるものの、落ち着いて本を読むことは殆どなくなっている。

図書館便りを書く機会を得たのを機に、秋田キャンパスの図書館をあらためて一巡りしてみた。

図書館に入り、カウンターの司書さんに会釈して奥へと進んで行く。2階まで吹き抜ける高い天井、そこに続く木の壁を抜けると広々としたホールに出る。ガラス張りが2階の天井まで続いており、つい見上げてしまう。明るく広々として開放感がある。会社でのグループ研修のことを思い出した。天井の高い会議室を使用していたあるグループだけがユニークでとても意外な提案をまとめていたように記憶している。ここにはゆっくり座れそうな椅子も在る。普段は片隅の書架の前で雑誌のタイトルを眺めているだけだが、今度、この椅子に座って何か一冊読んでみようと思う。

突き当たりの階段を上って2階へ進む。文学や語学の書架を過ぎると、産業の書架がはじまり、ここから先に専門分野の書籍が並べられている。いつもは農業や遺伝、技術、生化学といった書架あたりを物色しているが、今日は秋田キャンパス図書館の特徴の一つである『企画図書』の書架を覗いてみる。

『企画図書』の書架は2階の中央あたりの技術と自然科学の書架の間に設けられている。他の書架のような図書の分類とは関係なく、ここには「バイオテクノロジー」と「生物多様性」という秋田キャンパスを特徴づける二つの分野の本が選書されており、ここだけで千冊以上の本がある。漏れ聞いた話では、この書架には国

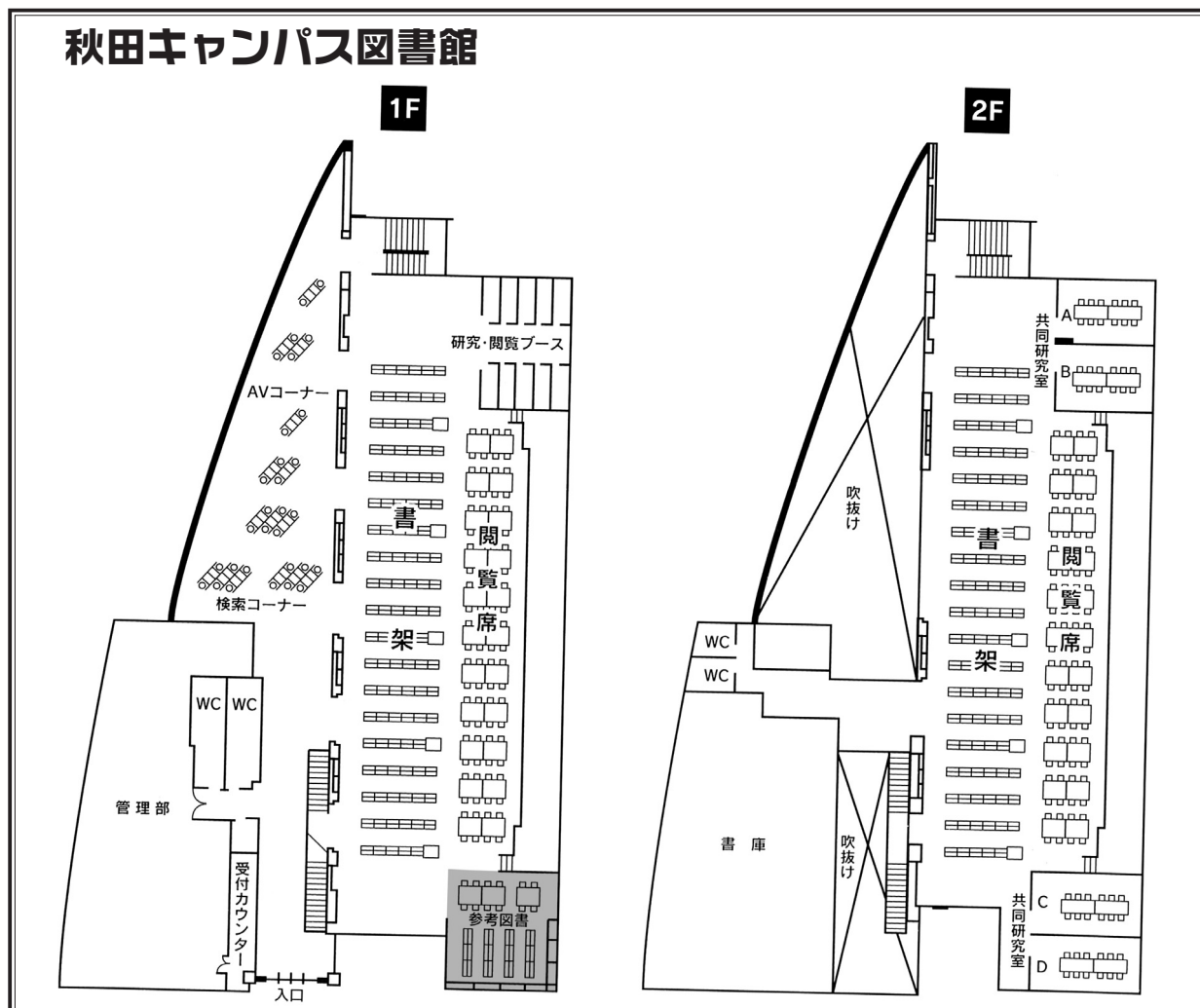
内に一冊しかない希少な本があるそうだ。しかも、学外から複写依頼もあるような本とのこと。一度、手にとって開いてみたい。

『企画図書』の一方の書架には『バイオテクノロジーの現状と未来』をキーワードに選書された書籍が並べられている。基礎科学から農学、医学、食品といった応用分野まで幅広い背景の書籍が一ヶ所に集められている。並べられた本を見ると、最先端技術に関する本や実験書が山のようにある。また、バイオテクノロジーの将来や産業に関するものなども数多く並べられている。かなり専門的な本が多いが、解かり易く解説された本も数多くあり、幅広くバイオテクノロジーについて知る上で役立ちそうである。ここ何年かの生命科学のトピックスが集められた読み物も含め、興味をひかれた本が何冊かあったので、一度目を通してみようと思っている。

もう一方は『生物多様性と産業』の書架で、ここには色々な種類の生物のことがまとめられた珍しい本がずらりと並べられている。絶滅危惧種、国内外各地の様々な生き物についての本も目に入る。試しに、ひときわ目を引いた『園芸植物百科事典』という大きな本を開いてみた。鮮明で綺麗な植物の写真が説明とともに目に飛び込んできた。その隣の棚には、自然と生物、生態系や生物進化に関する本も沢山集められている。少なからず生物進化にも興味があり、一冊を開いてみた。かなり読み応えがありそうである。これを書き終えたら、腰を据えてじっくり読むことにした。

先日、ある語句の意味を正確に調べるため図書館でたくさん本を開いてみて、改めて本を手取ることの重要性を実感した。開いて期待はずれの本もあったが、思わぬ収穫があった本も多くあった。最近はパソコンで情報を得たり、本を探したりすることが多くなった。これを期に、以前のように書架を廻って色んな本を開いてみて、面白そうな本をじっくりと読む機会を作ろうと思う。

利用案内……図書館内の配置について



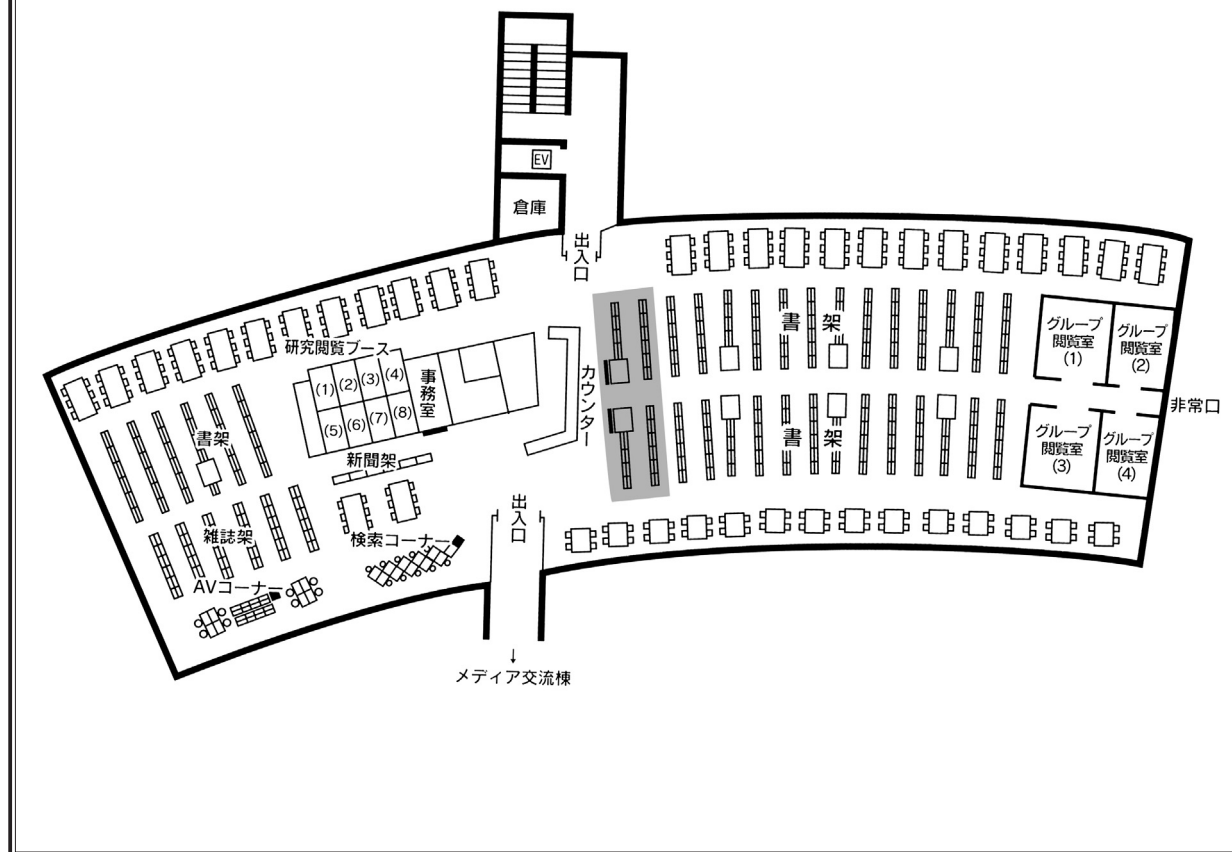
図書館で所蔵する図書は、その分野、内容により、日本十進分類表（NDC）という分類規則に従って配置されています。

「こういうテーマの本はどの辺りになるの?」といったとき、この十進分類表を目安にすると、効率よく目的の図書を探すことができます。

日本十進分類表は、全部で10の分野に分れ、そこからさらに中分類、小分類と詳細に細分化されていますが、ここではごく大まかな分野のみをご紹介します。(太字下線は、学部関連分野です)

- | | |
|-----------------|--|
| 0 門 (000 ~ 099) | 総記 (情報科学・図書館学・目録・書誌学など) |
| 1 門 (100 ~ 199) | 哲学 (哲学・心理学・倫理・宗教など) |
| 2 門 (200 ~ 299) | 歴史 (歴史・考古学・伝記・地理など) |
| 3 門 (300 ~ 399) | 社会科学 (政治・ <u>経済学</u> ・法学・ <u>経営学</u> ・社会学・教育・民俗学など) |
| 4 門 (400 ~ 499) | 自然科学 (数学・ <u>化学</u> ・ <u>物理学</u> ・天文学・ <u>生物学</u> ・医学など) |
| 5 門 (500 ~ 599) | 技術 (各種工業技術・環境・土木建築学・電子工学・家政学など) |
| 6 門 (600 ~ 699) | 産業 (農林水産業・鉱業・運輸・貿易など) |
| 7 門 (700 ~ 799) | 芸術 (美術・音楽・各種スポーツなど) |
| 8 門 (800 ~ 800) | 言語 (言語学・世界諸言語) |
| 9 門 (900 ~ 999) | 文学 |

本荘キャンパス図書館



参考図書

「英和辞典はどこですか?」という質問がよく寄せられます。
事典や辞書類、地図、各種年鑑や統計などの『参考図書』は、別コーナーの配置になっています。
(図書館案内図の の部分です)

雑誌バックナンバー

雑誌の最新号と同じ年度に発行されたバックナンバーは、新刊の雑誌展示コーナーの書架内側収納棚に置いてあります。
それ以前のバックナンバーについては、一般書架の雑誌書架をご覧ください。

資料探索法……インターネットで論文を探す

今日、学術論文を探索する手段として、インターネットは欠かすことができない重要なツールとなっています。書誌情報や目録所在情報だけでなく、論文自体がインターネット上で閲覧できるものも少なくありません。

インターネット上の膨大な情報群から、いかに効率良く目的の文献を見つけ出すのか。その参考となるサイトをご紹介します。

◆雑誌記事索引 (国立国会図書館)

国立国会図書館が収蔵している国内の専門誌・学術雑誌15,500誌を収録した、国内雑誌データベースとしては最大のものであります。収録誌の記事や論文タイトルから検索できます。

雑誌情報データベースの多くが、デジタル化が進んだ近年以降のデータに限られているのに対して、冊子体からのデータを引き継いだこの雑誌記事索引は、1948年以降の古い記事を検索することができます。(1948年～1974年は人文・社会科学系のみ)

U R L : <http://opac.ndl.go.jp/>

◆GeNii [ジーニイ] N I I 学術コンテンツ・ポータル (国立情報学研究所)

国立情報学研究所 (NII) が開設した、国内外の学術関連情報を提供するサービスを統合したポータル・サイトです。目録所在情報の提供 (NACSIS-WEBCAT, WEBCAT PLUS)、電子化情報の提供 (NACSIS-ELS)、情報検索サービス (NACSIS-IR) といった従来からのサービスに加え、論文の引用文献情報 (CiNii)、研究機関や研究者の情報、用語集の検索サービスなどへ行くことができます。

U R L : <http://ge.nii.ac.jp/>

[GeNii トップページの一部]



GeNii [ジーニイ] NII学術コンテンツ・ポータル
Global Environment for Networked Intellectual Information
国立情報学研究所 English

国立情報学研究所(NII)では、目録所在情報サービス、情報検索サービス、電子図書館サービス等のさまざまな事業を通じて、我が国の学術情報基盤の整備・流通促進に寄与してきました。
その一層の推進のため、それぞれのサービスごとに提供しているコンテンツを統合するとともに、国内外の有用な学術情報資源との連携を可能とすることを目標としたプラットフォーム“GeNii”(ジーニイ)の構築を進めています。
今後、新しい機能を順次公開をしていきますので、ご期待ください。

▶GeNiiの概要

■ 文献情報

-  **CiNii (NII論文情報ナビゲータ) 《試験公開》**
検索した論文の引用文献情報表示と本文へのリンク
なお、研究紀要ポータルとして公開していた国内の大学等が発信している研究紀要論文は、平成16年8月12日より、CiNiiにて公開しています。
-  **NACSIS-IR (情報検索サービス)**
広範囲の分野の文献情報、学術情報
※ 利用登録が必要
-  **NACSIS-ELS (電子図書館サービス)**
日本の学協会が発行する学術雑誌の論文検索・本文表示
※ 論文検索は一般公開、本文表示は利用登録が必要(一部フリーアクセス)
-  **NII-REO (NII電子ジャーナルリポトリ) 《試験提供》**
海外出版社の電子ジャーナルを統合して収録
※ 論文検索は一般公開、本文表示は購読契約機関のみ

■ 図書情報

◆Ingenta (Ingenta)

全分野を網羅し、1988年以降、28,000誌以上の学術雑誌より1,500万件以上の文献情報を検索することができます。

論文自体へのアクセスは制限されていますが、抄録などで、論文の概要を知ることが可能です。

U R L : <http://www.ingentaconnect.com/>

◆Springer Link (Springer Verlag)

ドイツの Springer 社と、その提携会社が発行する電子ジャーナルのプラットフォームサイトです。

一部分野にて、論文全文を閲覧することができます。(学内からのアクセスに限定されます)

U R L : <http://www.springerlink.com/>

◆Science Direct (Elsevier Science)

Elsevier 社が提供する世界最大の電子ジャーナル・サービスです。

科学・技術・医学・社会科学分野に渡る1,800誌以上のジャーナルの掲載論文情報を検索することが可能です。

一部の購入雑誌について、過去一年間分、論文全文を閲覧することができます。(学内からのアクセスに限定されます)

U R L : <http://www.sciencedirect.com/>

◆Directory of Open Access Journals

フリーでフルテキストにアクセスできる電子ジャーナルを収録したリンク集です。

全分野に渡り1,300誌以上の電子ジャーナルの情報を掲載し、62,000以上の論文を閲覧することができます。

U R L : <http://www.doaj.org/>

◆PubMed (National Center for Biotechnology Information)

National Library of Medicine が提供する医学分野の代表的な文献情報データベース、MEDLINE 及び Pre - MEDLINE に収録された文献を検索することができます。

MEDLINE にはアメリカを中心に世界約70カ国、900万件を超える文献が収録され、月に約3万件の文献データが追加されています。

速報性に優れ、MEDLINE への収録前の文献データも、速報版ともいえる Pre - MEDLINE にて提供されます。

U R L : <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/PubMed/>

◆Google Scholar

インターネットの一般的な検索エンジンである Google が学術論文専門の検索エンジンの提供を始めました。2004年10月から、ベータ版が公開されています。

キーワードからだけでなく、検索オプションで Author を指定して検索することが可能です。

検索結果の論文がオンライン上でフルテキストが入手できる場合、その url へのリンクが張られている、また、被引用回数が表示されることで論文の重要度の目安が測れるなど、利便性に優れています。

U R L : <http://scholar.google.com/>

お知らせ…春季休業期間中の図書館利用について

今年度の春季休業は2/11(金)～4/10(日)です。
開館時間と貸出可能点数が通常期と異なりますのでご注意ください。

【開館時間】

- 平日 9:00～17:00 (17:00～22:00無人開館)
土・日・祝日 9:00～17:00 (終日無人開館)
(2月28日(月)は館内整理日のため、9:00～17:00閉館、
17:00～22:00無人開館となります。)
※土・日・祝日はコピー機、視聴覚資料の利用はできません。

【資料の貸出について】

* 学生・院生

- ・1月28日(金)～4月3日(日)までに貸出された図書、AV資料の返却期限日は4月19日(火)です。
- ・貸出点数(図書・AV資料の合計)
学生:10点まで 院生:15点まで
※雑誌の貸出冊数、期間は通常期と同じです。

* 教職員

- 通常期と同じです。
※卒業予定者の方は返却をお早めに(最終返却期限は3月31日(木)です)

『カレント・コンテンツ』オンライン版のお知らせ

従来CD-ROM形態で提供されておりました『カレント・コンテンツ(Current Contents)』が、オンライン版で利用できるようになりました。

IPアドレス認証により、学内ネットワークからアクセスが可能です。

※同時に複数のアクセスはできませんので、ご注意ください。

URL: <http://isi01.isiknowledge.com/portal.cgi/cc>

秋田県立大学 図書館だより No.10 2005年1月発行

秋田県立大学 図書・情報センター <http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

E-mail: a_library@akita-pu.ac.jp

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185

E-mail: h_library@akita-pu.ac.jp

* ご意見・ご要望等をお寄せください。